



向陵広場

発行号 第44号
発行日 平成 31 年4月 11 日(木)
発行元 向陵編集校友会
責任者 伊藤有司 (県 10 回卒)

新鮮な「大葉」を食卓へ 高田 克明氏 県商 19 回卒(昭和 45 年3月)



私は卒業後に会社勤めをしましたが、25歳のとき実家の農業を継ぎ露地栽培を中心としてJAの指導や同業者のアドバイスにより新しい農業方法を採用したが、天候に左右されることが多く、机上の計画では年間の作付け、収穫量は確保される予定ですが現実にはそれらの計画が水泡と帰ってしまう事が多くありました。いろいろ悩み、周囲の方々の助言、家族の考えを聞き、私としての結論は一年間を通じて安定した栽培と収穫量が確保される農業に方向を転換することを決意をし、平成元年に温室による「大葉」栽培をスタートして、2018年に30周年を迎え感無量です。

「大葉」は生き物であり、常に成長の状態をみつめ早めの処方で被害を被らないように努力をしています。

愛知県の「大葉」の収穫量は全国のシェアの55%を占め、日本一を誇る。豊橋市、豊川市、碧南市、田原市で9割以上を生産しており、愛知県でつまものを生産している5農協(豊橋温室、東三温室、JAひまわり、JA豊橋、JA愛知みなみ)一体で、“あいちの大葉”として、ブランド化の成果をあげている。(インターネットより抜粋)

「大葉」の温室



「大葉」の摘み取り



「大葉」の出荷

豊橋農業協同組合予冷センター

